

令和2年度学校教育自己診断 まとめ

生 徒

○分析

肯定的回答の高かった項目は、「自分は校則を守っている」(78.7%)、「成績の内容や他人に知られたくないことなどの個人情報を守られている」(73.6%)、「進路についての情報を知る機会や場所がある」(72.4%)で、昨年度と同じであった。否定的回答が高かった項目は、「学校生活について、先生の指導は納得できる」(41.1%)、「学校の図書館を利用したことがある」(42.9%)、「地域の方と交流する機会があった」(43.1%)であった。指導内容について生徒が納得できるよう、引き続き丁寧に話をしていく必要がある。

○課題

新型コロナウイルスのため、多くの地域イベントが中止になり、昨年に比べて地域交流の機会が激減してしまった。コロナ影響下においても可能な地域交流の新しい在り方を模索していく必要があろう。

保護者

○分析

肯定的回答が高かった項目は、「学校は将来の進路や職業などについての適切な指導を行っている」(73.9%)、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」(69.2%)、「学校は家庭への連絡や意思疎通を行っている」(67.2%)で、昨年度と変わらない。否定的回答が高かった項目は、「子どもは学校の授業が分かりやすく楽しいと言っている」(46.4%)、「子どもは学校の授業がためになっていると言っている」(43.1%)で、こちらも昨年度と同じく、授業に対する保護者の満足度が低い。

○課題

学校運営協議会の委員に授業見学をしていただき、高い評価をいただいている授業での取り組みなど、来年度はぜひ保護者の方々に実際に授業の様子をご覧いただく機会を設けたい。合わせて授業力向上のための校内研修を継続していきたい。

教職員

○分析

肯定的回答が高かった項目は、「教育相談体制が整備されており、生徒が色々な人と相談する機会が保障されている」(87.2%)、「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」(79.5%)で、昨年度と同じであるが、肯定率は大幅に伸びている（特に教育相談体制は9.7ポイント増）。また、「学校の教育課程について教職員で話し合うことがある」(82.1%)は、昨年度から14.6ポイント増えており、今年度かわち野今後検討PTにおいて新教育課程の検討を繰り返し、成果を全体共有できたことが大きく影響していると思われる。

○課題

否定的回答が高かった項目は、「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について教職員で話し合う機会がある」(42.1%)、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度に生かしている」(43.6%)。1月に予定していた教職員人権研修が緊急事態宣言発令のため、2月15日に延期して実施した。また、各分掌の年度末総括の内容や、今年度の学校経営計画評価の内容を全体共有して、次年度の新たな取り組みに繋げていきたい。